

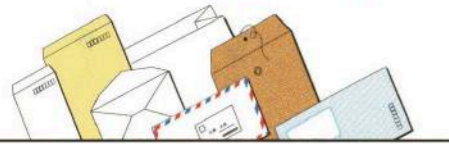
能養老



能山姥



TRADE MARK 月印紙製品 おかげさまで 創業100周年を迎えました。



株式会社 ヤマガタ

本社 / 〒540-0026 大阪市中央区内本町1丁目1番1号
TEL(06)6941-3171 FAX(06)6943-6214
http://www.le-yamagata.com
E-mail: octmoon@le-yamagata.com

支店 / 札幌・新潟・仙台・長野・東京・静岡・名古屋・京都・大阪・大阪南
神戸・岡山・広島・福岡
工場 / 埼玉越谷・大阪富田林 配送センター / 大阪平野

大阪市助成公演

文化力

能楽が世界の宝に

ユネスコ第一回世界無形遺産宣言

第59回 おおさかたぎぎのう

大阪新能

平成27年8月11日(火)・12日(水)

午後5時半開演 午後4時半開場

生國魂神社境内

電話〇六(一六七七)一〇〇〇二

雨天の場合の予備日は十三日のみです。詳しくは入場券の裏面をご覧ください。

ヤングNOH能
キッズ&学生
真夏の大会発表会
ハママてみょう
謡の世界発表会
平成27年8月11日
(大阪新能初日)
午後2時~4時
於 生國魂神社
入場無料・ご来場歓迎
雨天の場合は大阪新能に準じて順延

入場料(各日) 前売券 3,500円 当日券 4,000円 学生券 2,000円 (当日のみ)

チケットぴあ Pコード 786-581 http://pia.jp/

主催: 公益社団法人能楽協会・大阪支部・大阪新能委員会
後援: 大阪府・大阪市・大阪府、市、教育委員会・大阪商工議所・生國魂神社

お買物は、
近鉄百貨店で。

Kintetsu

近鉄百貨店

本店(あべのハルカス) 上本町店・東大阪店
奈良店・橿原店・生駒店・和歌山店
草津店・四日市店・名古屋店(近鉄バスセ)
abenoharukas.d-kintetsu.co.jp

あべのハルカス近鉄本店

黒トリュフ、黒あわび、黒ホル!
「黒」は間違いないんです。

黒毛和牛 特選ホルモン 絶賛販売中

情ホル® 情熱ホルモ

驚きの価格に 驚きの感動

※一部店舗において価格が異なる場合がございます
※黒毛和牛画像はイメージです

五苑マルシンググループ 大阪市中央区内本町1-1-8 TEL.06-6944-2292

大阪新能について

大阪の夏の風物詩として親しまれる「大阪新能」は、今からおよそ470年前、現在の大阪城の場所に生國魂神社が鎮座していた頃の天文15年に、当神社の御遷座を祝い数万の民衆を集め演能されたことに由来する。

時を経て昭和31年、御社殿復興の折の演能を機に、翌32年に「大阪新能」として、能楽協会大阪支部・大阪新能委員会により始められた。今や国際親善・文化交流の一端も担っている。今後も大阪の誇る文化のひとつとして、次世代へと受け継がれていくことを願う。

能巴



能鵜飼



天然醸造の旨さを贈り物

舞昆

リラックス キヤバたっぷり 発酵昆布

舞昆のこうはら 天王寺区堀越町10-13 (天王寺駅前商店街内) TEL:06-6775-2345

巴

巴御前生一知哉
齋中村宜成

大鼓 森山泰幸
小鼓 久田舜一郎

笛 赤井要佑

後見 久保田稔
上野朝義

山田 薰 佐野和之
阪本昭三 小西弘通
越知芳彦 寺澤忠芳
山中雅志 勝部延和

鐘の音

太郎冠者 小笠原 匡 主人 山本豪一

後見 泉 慎也

挨拶

大坂市長 橋下 徹

火入れ式

大槻文藏

▲能▼

狂女 波多野晋

水無月祓

都ノ男 森本幸治

大鼓 辻 芳昭
小鼓 荒木賀光

笛 野口 亮

後見 前田和子
大西智久

山本麗晃 大西礼久
伊原 昇 松浦信一郎
川中治作 山本章弘
林本 大 山本博通

▲仕舞▼

山田 薰
小林喜久
上野朝義
大西礼久

野宮 塩谷 恵

小川晴子
綿田翼枝
前田和子
山下麻乃

▲能▼

鶉飼

旅僧 福王知登

大鼓 辻 雅之
小鼓 久田陽春子

太鼓 上田慎也
笛 赤井啓三

間 里人 泉 慎也

後見 酒井賢一
湯本哲明

渡辺晃一 金春穂高
吉川恵春 金春康之
中田能光 山田友久

附祝言

終了予定 午後八時四十分頃

養老

勅使 福王知登
從者 中村宜成

大鼓 上野義雄 太鼓 中田弘美
小鼓 荒木建作 笛 齊藤 敦

間 里人 善竹隆平

後見 立花香寿子
梅若善久

上野雄介 梅若基徳
永田克壬 井戸和男
金子 昭 梅若猶義
今村哲朗 池内光之助

▲狂言▼

梟

法印 善竹忠一郎

兄 竹内 寛
弟 善竹徳一郎

後見 増田 健

挨拶

新能委員長 松田雅好

火入れ式

高林呻二

▲能▼

静御前 石黒実都

吉野静

佐藤忠信 広谷和夫

大鼓 守家由訓
小鼓 成田達志

笛 貞光義明

間 衆徒 善竹隆司
衆徒 上吉川 徹

後見 辰巳和磨
岡本知子

畑 宏隆 澤田宏司
渡辺珪助 辰巳満次郎
徳永力雄 山内崇生
植田竜二 辰巳二郎

▲仕舞▼

赤井きよ子
尾崎早苗
立花香寿子
前田飛南子

天鼓 上野朝義

上野雄介
寺澤幸祐
上野雄三
長山耕三

▲半能▼

山姥

從者 福王茂十郎

大鼓 山本哲也 太鼓 上田 悟
小鼓 清水皓祐 笛 左鴻雅義

白頭

後見 武富康之
赤松禎友

上野朝彦 寺澤幸祐
鶴 克彦 上野雄三
水田雄昭 齋藤信隆
長山耕三 山本正人

附祝言

終了予定 午後八時四十五分頃

第一日

巴(ともえ)

木曾からの旅僧が近江の国粟津の原でこの地で果てた木曾義仲の霊を弔っている巴御前の霊が現れ、義仲に最期まで同道して戦った有様や、また自害の供を禁じられ義仲の遺言を守って木曾まで形見の品を届けた心の内面を再現し、跡の弔いを頼み消え失せる。

鐘の音(かねのね)

黄金作りの太刀を誂えようと思った主人は太郎冠者に鎌倉へ行ってカネ(黄金)のネ(値)を聞いて来いと言いつけたが、カネは鐘に、値は音に聞き違え…

水無月祓(みなづきばらい)

京都に住む男は播州室の津へ旅し、遊女と夫婦の契りを結んだ。京都へ帰って迎えを出したが女は既に行方知らずになっていた。探しようもないまま水無月夏越しの祭に鴨の社に詣でた。その祭事の場で茅の輪の謂われを語りそれを売り歩いている女が尋ねている女であり再会が神の恵みにより叶う。

鶉飼(うかい)

甲斐の国石和では旅人を泊めることが禁じられていた。旅僧は幽霊が出ると云う路傍の御堂に泊まる。夜更けて鶉使いの亡霊が現れた。その鶉使いは生前に旅僧の供僧を自宅に泊めていた。旅僧が鶉使いの弔いをすると閻魔王が姿を現し一僧一宿の功力により仏果を得さしめる約束をする。

第二日

養老(よろろう)

美濃の国本巢に霊泉が湧き出したことを知った天皇は臣下に確かめさせた。霊泉を見出した親子に出会い事の次第を聞くと詳しく事情を語り、その霊泉を汲み上げて天皇に捧げた。やがて天より光輝き妙音が響き渡り、山の神が現れて君を仰ぐ臣民により天下は太平であると祝し舞を舞って寿ぐ。

梟(ふくろう)

弟が山から帰ってきて様子がおかしいので兄が山伏を頼むと梟が取り憑いた事が判る。祈祷を始めると兄にも取り憑き、更に山伏までも…

吉野静(よしのしずか)

吉野山を頼って頼朝の討伐を通れる義経は衆徒の寝返りのため吉野から再び落ちて行く。その義経を助けるため、静御前と忠信は知恵を出し合って時間稼ぎを企てる。忠信は都人を装って京都での義経扇扇の噂を宣伝し、静御前は舞を舞って衆徒の闘争心を鈍らせて、義経の逃走を助ける。

山姥(やまんば) 白頭

都で人気遊女の百万山姥は親の年忌に善光寺に参詣する。越中から越後への山中で日が暮れ声を掛けてきた女の宿へ行く。その女は百万山姥の素性を知っていて、山姥の一曲を所望する。その女は本物の山姥で夜になって正体を現し百万山姥の曲舞の謡に合わせて山巡りの有様を見せる。(層人 記)

入場料

当日券 四、〇〇〇円 (各一日有効)
前売券 三、五〇〇円 (各一日有効)
学生券 二、〇〇〇円 (当日のみ)

入場券販売所

◆チケットぴあ(PCODE786-581)
◆阪神プレイガイド◆大丸心齋橋店
◆近畿日本ツーリスト(難波・上本町)
◆生國魂神社◆各出演者◆各能楽堂

都合により能の一部を短縮することもありますのでご了承下さい。当公演は、指定写真班を設けております。事前に許可のない方の録音及び写真・ビデオ撮影は堅くお断り申し上げます。